

## 会 議 録

### ■附属機関等の会議の名称

第4次丹波篠山市食育推進計画策定委員会(第3回)

■開催日時 令和4年12月7日(水) 14時30分～16時00分

■開催場所 丹南健康福祉センター 2階 研修室

### ■出席者

策定委員:久保田会長、小林副会長、細見委員、田淵委員、建井委員、荒木委員、畑委員、山本(由美子)委員、山本(圭太)委員、讃岐委員、団野委員、河村委員、酒井委員、宮川委員

事務局(健康課):堂東美穂、吉田久仁子、藤井八恵子、市野愛貴、伏田愛、坂本いづみ、古杉理沙

丹波篠山市庁内食育担当者:辻本光、山下香織、中村直美、松浪友子、石田哲也、小村杏奈、植野弘美、今西隆亮、田村ゆかり、荻野順子、岡本弥之

■傍聴人数:0人

■会議の公開・非公開の別:公開

### ■会議資料の名称

- 1 第4次丹波篠山市食育推進計画策定委員会(第3回)次第
- 2 第4次丹波篠山市食育推進計画策定委員会(第2回)会議録
- 3 第4次丹波篠山市食育推進計画素案

### ■会議次第

1 開会

2 協議事項

(1) 第4次丹波篠山市食育推進計画(素案)について

ア 第1章 計画の概要について【P1～】

イ 第2章 第3次計画の現状と成果と課題【P8～】

(ア) こども園、保育園、幼稚園、学校における食育の推進【P15～】

ウ 第3章 計画の方向性【P26～】

(ア) こども園、保育園、幼稚園、学校における食育の推進【P31～】

(2) 意見交換

(3) 今後のスケジュールについて

### 3 閉会

#### ■議事要旨

#### 2 協議事項

##### (1) 第4次丹波篠山市食育推進計画(素案)について

##### イ 第2章 第3次計画の現状と成果と課題【P8～】

(ア) こども園、保育園、幼稚園、学校における食育の推進【P15～】

##### ウ 第3章 計画の方向性【P26～】

(ア) こども園、保育園、幼稚園、学校における食育の推進【P31～】

[事務局より説明]

《質疑》

(A委員) P15 について、『家族で楽しく食事すると会話も弾み』とあるが、前回食事中は会話をしないと話したのではなかったですか。

(B委員) 前回、黙食と言っていたのは学校の給食でのことです。ここで述べているのは家庭でのことであり、家族単位では楽しく会話をして食事を摂るという意味ではないでしょうか。

(C委員) 学校では新型コロナウイルス感染症対策として黙食を実施していたが、文部科学省の方針が変わってきており、現場としても見直していく必要があると思っています。食育推進計画としてはこの内容で問題がないと考えます。

(D委員) 国の方針も変化していく、計画の内容はこの時点での文章であり、流動的に対応していくしかないと考えます。

(会 長) 食事中の対応として、厚生労働省も家庭内の食事については言及していないと思います。時代の状況によって対応していくべきだと考えます。

(E委員) 令和4年の現状値はいつの時点のものですか。また変わるものですか。

(事務局) 令和4年の現状値は9月時点のものです。

(B委員) その前の9月からの1年間の数値なのですか。

(事務局) 今年度の数値です。

(E委員) P15～の現状値は『平成29年度』となっており、目標値、実績値は『令和4年度』とあるが、P30の現状値は『令和4年度』で目標値は『令和9年度』に変わっているが、整合性はどのようなのでしょうか。

(事務局) P15～は『第3次計画の現状と成果と課題』であり、今回の第4次計画を策定するにあたりそれぞれの分野の実績と評価を示している。P30の第3章は今の現状からみて5年後の令和9年度に目指す目標値を示しています。

(E委員) 分かりました。

(A委員) P33『子どもたちと、地域の農業従事者が連携した農業体験活動と進め～』とあるが、学校に協力する田畑に看板などを立て、子ども達にとって目に見える食育の取り組みをしてほしいです。

(会 長) P35の『調理室への当番活動』とはどのようなものですか。

(事務局) クラスごとにその日の当番2名を決め、給食室へ出席人数の報告に行きます。調理員よりその日の献立のうち、楽しみにしている果物を聞くことを当番活動としています。

(会 長) 目標値は『毎日』となっていますが、全園で毎日ということでしょうか。

(事務局) そうです。5年後には新型コロナウイルス感染症も治まり、毎日活動していきたいという希望も込めています。

(F委員) P2『ライフステージと生活場面に応じた食育』の図の左に『栄養課題』『栄養施策』とありますが、“栄養”というと狭い意味に捉えてしまいます。もう少し大きな意味を含む食育を示した方がいいのではないかと思います。

(事務局) 第1回策定委員会で県の食育推進計画を配布していますが、第3次計画を作成した後にライフステージ別の食育が欠けていると気づき、今回の計画に盛り込みたいと考えています。今ご意見いただきましたように、確かに『栄養施策』とすると狭い意味になると感じました。再度検討します。

(事務局) 本日、兼頭委員が欠席されていますが、この内容について確認します。

(会 長) 『栄養課題』の内容を見ると、身体的な健康状態に特化した内容がまとめられているので、『栄養施策』という言葉で示されているように思いました。

(会 長) 第3章計画の方向性の中で、前回意見のあった、目標値の修正案について、事務局より説明をお願いします。

[事務局より説明] P45について

(G委員) P2の『ライフステージと生活場面に応じた食育』の図に関して、『栄養課題』だけが食育のライフステージに関係するものなのかと考えると難しいと思います。栄養課題に関しての取り組みを示すと食育としての取り組みとしては範囲が狭くなると思います。また、『栄養施策』についても、例えば妊産婦・乳幼児期の『低出生体重児』や高齢者の『フレイル』について栄養課題を解決すれば問題が解決するものでもないと思います。

(会 長) 『栄養課題』というより、健康課題とすればいいのか。『栄養施策』とすると範囲が狭い感じがします。

(F委員) 『成育基本法』はあるのか？食育基本法の間違いではないですか？

(事務局) 『成育基本法』はあります。ここではこちらを示しています。

(A委員) 事務局として、どういう趣旨で『栄養課題』『栄養施策』という言葉を用いたのか説明してもらえればいいのかではないでしょうか。

(事務局) 県の計画にあるライフステージごとの課題とそれぞれの施策を示した図が一つの例として分かりやすいと思い本計画案に加えておりましたが、再度県にもどういった意味合いで使用されているのか確認をし、市としてこれを活かしていくのか、それともまた違った形で提示していくのか、検討します。今回で策定委員会は終了の予定ですが、決定事項については必ず策定委員のみなさまにお知らせします。

(会 長) 今回が最後の策定委員会となりますが、みなさんから一言ずつご意見ををお願いします。

(B委員) 貴重な体験となりました。私の活動としてボランティアをしまして、子どもの貧困を減らしたいと活動をしています。これから地域の方の野菜を色々な形で循環させたいと考えています。色々な形でみなさまにもご協力いただけたらと思っています。

- (H委員) このような会に参加したのは初めてでした。“篠山自然派”というオーガニックの生産者の集まりから学校給食へお願いを初めて3年で達成しました。今後も子どもたちに有機栽培の野菜を食べさせたいと思っている団体があることをみなさんに知っていただけたらと思います。
- (I 委員) 今回、みなさんの意見を聞きながら成長させていただくことができました。共働きの家庭が増えていく中で、子どもたちにとって自分1人で食事の準備をする力が必要になってきていると思っています。
- (E委員) 安心安全をお届けするのが生産者の気持ちだと思います。それを橋渡しすることがJAの役割だと認識しています。直売所では丹波篠山産の食材が集約されています。地元の方に利用していただくことが、全体的な食育の根底に繋がっていくのではないかと考えています。行政とも連携し学校給食への提供にも対応していきたいと思っています。今計画も5年間目標達成に向け進捗管理を十分していただき、目標の達成と更なる食育の推進をお願いします。
- (C委員) 学校現場でも食育活動が後退していると感じていました。第3次の計画を立てた平成29年にはまさかこのようなコロナ禍を想像してなかったが、できるだけ目標を達成できるように、学校現場でも取り組んでいきたいと思っています。
- (J委員) PTA、保護者の立場から、学校・園には大変お世話になっています。やはり子育てをする一番の責任者は保護者だと考えています。子育てに関してはみなさん試行錯誤していると思います。本計画が、子育てに関する食育の指針を読み取れるようなものになればいいなと思いました。
- (F委員) 今回参加させていただき、色んな立場の人、色んな角度から食育に関しての意見交換を聞かせていただきよかったですと思いました。栄養士として地域活動するためのヒントをたくさんいただきました。今後も機会がありましたら、みなさんと色んな活動ができたらと思っています。
- (K委員) 歯科衛生士会としては、新型コロナウイルス感染症ですごく打撃を受けていて、私たちにとって健康教育が大きな仕事の一つですが、子ども達へのブラッシング指導ができていません。パネル展示や口腔模型を使った指導等の活動に変えて実施してきているが、コロナ禍が治まったらふれあう機会が増えていったらいいなと思っています。
- (G委員) 食育推進計画に関しては2次、3次、4次と関わってきていて思うのは、“食育”という言葉についてアンケートにもありましたが「知っていますか」「実施していますか」と聞いたときに食い違いがあり、“食育”という言葉に何となく曖昧さを感じています。私たちはお口のケアを通じて食育を上手くこなしていくための道具を作っていく立場と考えています。特に高齢者のフレイル対策についても行政とともに取り組んでいけたらと考えています。
- (D委員) コロナ禍で学校現場では食育に取り組む難しさがあると感じました。状況が変わる中、それに合わせていくことの大変さもよくわかりました。予防接種等に引き続き取り組み、感染状況を収束に向かわせたいです。食育に関しても今後も関係機関と連携しながら進めていきたいです。

(L委員) ネット社会で多くの情報が溢れる中、正しい知識を伝えることが大切だと感じています。

(副会長) いずみ会としては食育をモットーに様々な活動をしてはいますが、更に勉強し今後の活動に役立てたいと思いました。

(5) 今後のスケジュールについて

- ・12月19日に市長に答申予定
- ・12月の議会で報告予定
- ・1月中旬から下旬にパブリックコメント募集
- ・3月に計画の策定

■その他

- ・会議録の公開にあたり、会議録は議事要旨とし、発言委員名はA委員、B委員…と表記する。公開前に委員には内容を確認いただくこととする。